

音楽の創造は、あらかじめ個人が何かを設計することに限定されない。そうではない形のひとつに、集団で同時進行的に進められる創造のあり方がある。前者は作曲家があらかじめスコアを書き起こすやり方であるし、後者は即興アンサンブルのような集団によるその場で生成されていく音楽が該当する。後者には、コミュニケーションや相互作用、交渉といった個人では行えない営みが深く関わっている。こうした複数人での協同的で即興的な創造性を「Group Creativity」と呼ぶ。

「Group Creativity」に関する研究は、主に音楽心理学、音楽教育、音楽療法の分野で発展していて、研究対象はもっぱら複数人での即興アンサンブルを扱っている。この場合の即興アンサンブルは、必ずしも舞台上演を目的にしたものに限らない。むしろ、観客のいない空間で行われるセッションや、教育や療法の現場で行われるセッションなど、インフォーマルな性質を持つものを多く対象としている。

本発表では、まず「Group Creativity」というキーワードを用いて研究が行われている研究を2つ紹介する。1つ目は、R. K. ソーヤーの「Group Creativity」5つの特徴、2つ目はR. マクドナルド、G. ウィルソンの即興演奏における個人の意思決定のためのモデルと各奏者間の理解不一致状態である。その後、「Group Creativity」というキーワードは使われていないものの、即興アンサンブルを対象とした研究のうち、複数人での共創による音楽創造の仕組みを見出しているものを複数紹介する。最後に、それぞれの理論を比較検討し、理論整理を行う。